

3 学習センター活動報告

3.1 言語学習センター活動報告

平成 29 年度言語学習センター活動報告（2018/04/23 現在）

1. 構成員

センター長（1 名）、副センター長（1 名）、専任教員（1 名）、係員（1 名）

学生チューター（計 27 名）

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	留学生	院生	研究生	合計
前期	0	4	4	1	5	0	0	14
後期	1	4	4	0	4	0	0	13

◇ 平成 29 年度は前期 14（日 8：留 6）名、後期 13（日 8：留 5）名のチューター体制で運営した。

◇ 対応可能言語：英語・日本語・韓国語・タイ語・ポルトガル語・スペイン語・フランス語・タガログ語・ウォルフ語・ミャンマー語（10 か国語）

2. 言語学習センターの活動目的

- (1) 学生に外国語を学ぶ最良の場を提供する。
- (2) 学生チューターが学生の自主学習の促進と学力向上をサポートする。
- (3) 学内外の語学学習者に異文化交流（理解）の機会を提供する。
- (4) CRLA(College Reading & Learning Association)の免状による ITTP (International Tutor Training Program) 修了証明書の取得によって学生（チューター）の質の向上を目指すとともに、よりよい学習支援と学習環境開発を目指す。

3. 平成 29 年度言語学習センター利用状況

(1)月別利用者数(平成 29 年 04 月 08 日～平成 30 年 02 月 08 日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	WS	合計
2016	421	552	525	557	39	36	334	569	367	501	201		4102
2017	2334				0	14	489	512	322	482	180	*318	4878
												**227	(4333)
実人数	592				0	12	199	234	168	272	111		

※2017 年 4 月～7 月にかけての統計は、利用者管理システムのオンライン化を開始したばかりであったため、データが月別に集計できず、まとめた数値を掲載している。

*チューター主催のワークショップ（WS）参加者数 **英検 WS（担当教員主催）参加者数 ・（ ）内は WS 参加者を含まない合計数

2016（H29）年度利用者合計は昨年度と比較すると 776 名（15.9%）の利用者数増となった。今年度は LLC 外で行ったワークショップ参加者の人数を「LLC 利用者」としてカウントしたことと、後期は一部の英語教員が LLC でオフィスアワーとして活用し、学生の活用を促したことにある。やはり学生のニーズに合わせてワークショップ等を実施すると LLC の活用が促進される。後期は前期と比較し

て授業連携のチュータリングは2クラスであったにもかかわらず、日本語担当教員が留学生の LLC 活用促進を積極的に行ってくださり、何名かの留学生は定期的に LLC 教材およびチュータリングを活用していた。このように、学生のニーズを把握し、それに合わせたプログラムを実施することと、語学講義担当教員と連携することで、学生の利用率を向上できることが改めて明確になった。

英語および日本語以外の第二言語のチュータリングに関しては、韓国語が頻繁に利用されていたが、中国語はニーズはあるものの、中国語担当チューターが雇用されていなかったため、支援することができなかった。ニーズの高い語学チューターの雇用については、何らかの対処法を見出す必要がある。

(2) 学年学科別 LLC 図書利用状況(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

全図書数：4,306 冊

1 年国	1 年看	1 年ス	2 年国	2 年看	2 年ス	3 年国	3 年看	3 年ス	4 年国	4 年看	4 年ス	E 年特	合計
684	2	2	38	4	1	22	0	2	11	0	0	28	794

LLC 図書の貸出し状況は、英語の課題としての多読図書の利用が多く、英語が必修の一年次の利用が顕著に表れている。また、英語能力試験の図書利用も多いため、国際学群の利用が多いのが特徴である。今後も学生のニーズ調査を行いながら、図書による自主学習を推進させていく予定である。

4. 平成 28 年度授業連携 (添付資料参照)

授業連携については、1 年次英語科目(前期 12 クラス、後期 8 クラス)や専門科目(前期 5 クラス、後期 9 クラス)との連携の協力を得て、LLC 利用者の増加に大きく貢献した。チュータリングはもちろん、書籍、レベル別リーダーおよびリスニング教材、DVD など LLC 教材を活用する課題が多く見られた。特に前期に関しては 6 クラスからチュータリング課題があり、大いに LLC 利用者数増加に貢献した。

5. チューター主催のプロジェクト

名桜大学学生の外国語学習サポートなどを目的に、チューターが各自の得意分野や経験を活かして、毎学期プロジェクトを企画・実施している。プロジェクトには、学生の外国語学習を支援するワークショップと LLC の運営改善を目的にしたプロジェクトがある。今年度は語学力向上を目指すワークショップよりも留学生の独自の文化を紹介する異文化紹介ワークショップが目立った。また、新しい発想である LLC オリジナルソング作詞作曲やなどは時間の関係、完成まで至ることはなかったが、今までない画期的なプロジェクト案が遂行された。平成 29 年度に実施したプロジェクト(ワークショップを含む)は以下の通りである。

前期(計 7 プロジェクト)

- ② 英国ワークショップ
- ③ ミャンマーを知ろう
- ④ 映画を通して英語を楽しもう
- ⑤ チュータートレーニングプロジェクト
- ⑥ 日本語ワークショップ
- ⑦ 音楽を通して英語を楽しもう
- ⑧ LLC オリジナルソング

後期(計 5 プロジェクト)

- ① セクションワークマニュアル作りプロジェクト
- ② フィリピンワークショップ

- ③ チャンプルー (The world cultures)
- ④ 英語スピーキングワークショップ
- ⑤ 韓国の若者文化

6.チューター育成について

(1)チュータートレーニング

LLC では、チューター技術向上のために、米国 CRLA(College Reading & Learning Association)による ITTPC(International Tutor Training Program Certificate)国際チューター育成プログラムを導入し、毎週一回 (2 時間) トレーニングを開催している。トレーニングの内容は次のとおりである。(レベルは初級レベルから L1=レベル 1・L2=レベル 2・L3=レベル 3 となる)

前期

回	日時	トレーニングの表題
集中研修会	4 月 05 日	Definition of Tutoring & Tutor Responsibilities (L1) Basic Tutoring Guidelines Do's and Don'ts(L1) ☆CRLA criteria and LLC tasks ☆How to prepare for a training session
第 1 回	4 月 14 日	Techniques for Successful Beginning & Ending a Tutoring Session (L1) ☆Training for References ★Orientation for Workshop
第 2 回	4 月 21 日	Identifying & Using Resources (L2) The Role of Learning Centers in Higher Education (L3)
第 3 回	4 月 28 日	Referral Skills (L1) Setting Goals/Planning (L1)
第 4 回	5 月 02 日	Group Management (L3)
第 5 回	5 月 12 日	CRLA プロジェクト案 発表会
第 6 回	5 月 19 日	Assertiveness and/or Difficult Students (L1)
第 7 回	5 月 26 日	Role modeling (L1) Tutoring in Specific Skills/Subject Area (L2)
第 8 回	6 月 02 日	Communication Skills (L1)

第 9 回	6 月 09 日	Use of Probing Questions (L2)
第 10 回	6 月 16 日	Cultural Awareness and Inter-Cultural Communication (L2)
第 11 回	6 月 30 日	2017 年前期チューター選考会議
第 12 回	7 月 07 日	How to Tutor/Deal with Target Population (L3)
第 13 回	7 月 14 日	CRLA プロジェクト発表会リハーサル
第 14 回	7 月 21 日	CRLA プロジェクト発表会
第 15 回	7 月 28 日	Training and supervising other tutors (L3)

後期

回	日時	トレーニングの表題
集中研修会	09 月 25 日	Definition of Tutoring & Tutor Responsibilities (L1) Basic Tutoring Guidelines Do's and Don'ts(L1) Techniques for Successful Beginning & Ending a Tutoring Session (L1) Identifying & Using Resources (L2) Training & Supervising other tutors (L3) : 先輩チューターのみ受講 ★CRLA criteria and LLC tasks ★How to prepare for a training session
第 1 回	09 月 29 日	Assertiveness and/or Difficult Students (L1)
第 2 回	10 月 06 日	The Role of Learning Centers in Higher Education (L3)
第 3 回	10 月 13 日	Setting Goals and Planning (L1) ★Orientation for Workshop
第 4 回	10 月 20 日	Role modeling (L1)
第 5 回	11 月 10 日	CRLA プロジェクト案 発表会
第 6 回	11 月 17 日	Referral Skills (L1) ★How to write abstracts (ゲスト講師：玉城本生先生・タンエンハイ先生)
第 7 回	11 月 24 日	Group Management (L3)
第 8 回	12 月 01 日	Communication Skills (L1)
第 9 回	12 月 08 日	Tutoring in Specific Skills / Subject Area (L2) (ゲスト講師：タンエンハ先生・玉城本生先生)
第 10 回	12 月 15 日	Use of Probing Questions (L2)
第 11 回	12 月 22 日	新チューター選出会議 (平成 30 年度前期)
第 12 回	01 月 19 日	Cultural Awareness and Inter-Cultural Communication (L2)
第 13 回	01 月 26 日	CRLA プロジェクト発表会リハーサル
第 14 回	02 月 02 日	CRLA プロジェクト発表会
第 15 回	02 月 09 日	Summary for the semester (Tutors' feedback & Professors' feedback)

(2)チューター評価

チュータートレーニングの一環として、以下の三つの評価を行った。

➤ チュータリングの評価

チューター同士がお互いのチュータリングを評価し、良い点や改善点を指摘する。学期に三回実施した。

➤ チューター自己評価および他者評価面接

教員とのチューター評価面接を各学期に実施（前期 3 回・後期 2 回）した。

➤ チュータリングを受けた学生からの評価

チュータリングを受けた学生から、チュータリングについての評価。チューターは五名以上の学生からチュータリングに関しての評価をうけた。

7. CRLA によるチュータートレーニングプログラム修了証明書 (ITTPC) 取得者数

	マスター(L3)	アドバンス(L2)	サーティファイド(L1)	取得者合計
H29 前期	3	3	7	13
H29 後期	0	4	5	9
H29 年度	3	7	12	22
*全体合計	41	89	167	297

*平成 14 年度後期から平成 29 年度後期までの間に、合計 297 人の学生が修了証明書を取得した（マスター41名、アドバンス 89 名、サーティファイド 167 名）。

8. 新企画活動報告

① eラーニング（英検 CAT）の活用を含む基礎英語ワークショップの開催（LLC 担当教員）

リメディアル教育として e ラーニングを使用した英検ワークショップ（WS）を 20 名を対象に実施した。32 名が登録し 25 名が 13 回すべての WS に平均 78%の出席率で参加した。最終日のアンケート結果（n=15）では、全員が「(とても) 役立った」と回答しており、全員が今後も e ラーニングを継続したいと答えた。さらに WS 自体 15 名中 9 名の参加者が 100～70%効果を実感したと回答している。特にスピーキングとリーディングとリスニングについて伸びたと感じていると答えた。e ラーニング効果もあるが、補佐的に別のアクティビティを実施した効果も大きい。

② 英文アブストラクト添削支援（トライアル）について

✧ 英文アブストラクト対応に関するトレーニングの開催

H29/11/24 および 12/09 の 2 回にわたり、アカデミック英語基礎担当教員 2 名（タンエンハイ先生・玉城本生先生）より、アブストラクトの構成と作成方法について特別研修を受けた。

✧ 英文アブストラクト実践（トライアル）

H30/01/23～01/26 の期間、LLC にてスポーツ健康学科の小川ゼミ 9 名の学生に対し、英文アブストラクトライティングの添削サポートを実施した。無事に添削を終えたが、今後全ての 4 年次対象で英文アブストラクト添削の対応にはいろいろな角度からの対応が必要であることがわかった。

③ 「VIP MEMBER」制度の導入

✧ LLC の利用者を増加させるために、学生チューターから頻度の高い利用者に対して、「VIP MEMBER」というカードを発行し、特典を与える制度の提案があり、平成 30 年度から実施する予定である。

9. その他の活動

4 月：LLC チューターオリエンテーション（3 日）

新入生ガイダンス（3 日～9 日）LLC の紹介

沖縄キリスト教学院大学視察者 2 名対応（14 日）

5 月：第一回チューター評価面接（8 日～19 日）

英検ワークショップ 講師：笠村先生（10 日～8 月 2 日）

プロジェクト案 発表会（12 日）

プロジェクト実施（5 月 15 日～7 月 7 日）

神田外語大学視察者 4 名対応（17 日）

6 月：チューター公募期間（5 日～22 日）

第一回オープンキャンパス参加（10 日）
第二回チューター評価面接（5 日～16 日）
英検 2 次試験面接対策講座（19 日～7 月 7 日）
チューター選考会議（30 日）

7 月：第三回チューター評価面接（10 日～20 日）
CRLA 前期プロジェクト発表会（21 日）
8 月：第二回オープンキャンパス参加（12 日）
9 月：LLC チューターオリエンテーション（25 日）
10 月：英検 2 次試験面接対策講座（9 日～11 月 12 日）
第一回チューター評価面接（16 日～25 日）
11 月：プロジェクト案 発表会（10 日）
プロジェクト実施（13 日～1 月 19 日）
12 月：チューター公募期間（4 日～20 日）
チューター選考会議（22 日）
1 月：第二回チューター評価面接（5 日～11 日）
福井大学視察者 5 名対応（30 日）
2 月：CRLA 後期プロジェクト発表会（2 日）
3 月：神田外語大学より招聘があり、笠村淳子（LLC 担当教員）が LLC の取組みを発表（8 日～10 日）
東京工業大学視察者 9 名対応（13 日）

以上

3.2 数理学習センター活動報告

平成 29 年度 数理学習センター(MSLC)活動報告

1. 構成員

センター長（1 名） 副センター長（1 名） センター職員（1 名）

表 1 年次別学生チューター数（前期・後期）

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	合計
前期	0	8	4	3	15
後期	0	9	4	3	16

表 2 チューターのレベル（前期・後期）

	マスター	アドバンス	レギュラー	チューター	合計
前期	2	4	2	7	15
後期	2	6	1	7	16

MSLC スローガン「MSLC 内及び他団体との連携・協働・進歩」

2. 数理学習センターの目標

- ① 数理系科目の学習支援により学生の数理能力向上と自主学習をサポートする。
- ② チューター主催のプロジェクトを通して学生に数理系分野の興味・関心を広げる。
- ③ チューターの数学力向上、チュータリングスキルの向上、社会人基礎力の向上を図る。

3. 連携授業科目（前期：6 科目 8 クラス、後期：8 科目 10 クラス）

前期：数学（26 人 高安）、統計学基礎（23 人 高安）、統計学（67+3 人 木村・高安、仲程）
人体構造・機能及び医療用語（15 人 大城真理子）、臨床医学各論Ⅱ（12 人 大城真理子）
情報処理論（81 人 天願）

後期 数学（23 人 高安）、統計学（125 人 木村・高安、仲程）
臨床医学各論Ⅰ（13 人 大城真理子）、臨床医学各論Ⅲ（13 人 大城真理子）
診療特別講義（13 人 上門要・大城真理子）医療統計学（15 人 木村）
コンピュータ概論（67 人 天願）

4. 数理学習センターの利用状況

(1) 平成 29 年度月別利用者数（期間：平成 29 年 4 月 10 日～平成 30 年 2 月 8 日）

平成 29 年度の MSLC の利用者数は前期 1,707 人、後期 2,238 人、合計 3,945 人であった。利用者実人数は前期 252 人、後期 235 人で年間 406 人であった。つまり、前期も後期も利用した人が 81 人いた。1 人当たりの平均利用回数は前期 6.8 回、後期 9.5 回、年間 9.7 回となっている 1 人当たりの利用回数の最高は前期 21 回、後期

22 回であった。15 回以上の利用者もいる一方で、リタイアする人もいる。利用者の多い月は、前期 5 月、後期 11 月となっている。1 日当たりの平均利用者数は 24.7 回で、最も多かったのは後期 11 月の 36.9 人となっている。曜日時間別に見ると前期は木の 4 限、水の 4 限が多く、後期は木 5 限と木 2 限、水 2 限が利用者が最も多かった。(金曜日の 5 限目は MSLC の定例のトレーニング & ミーティングのため閉室となる。)

表 3 平成 29 年度月別利用者数（延べ人数、実人数、1 人当たり利用回数、1 日平均利用者数）

利用者数(人)	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
延べ数	166	553	485	412	91	8	380	738	578	387	147	3,945
実人数	86	152	152	135	79	6	175	185	191	158	120	406
平均利用回数	1.9	3.6	3.2	3.1	1.2	1.3	2.2	4.0	3.0	2.4	1.2	9.7
授業日数 (日)	15	20	21	19	5	2	19	20	16	16	7	160
1 日平均人数	11.1	27.7	23.1	21.7	18.2	4	20	36.9	36.1	24.2	21	24.7

(2) 利用者延べ人数の前年度比較（期間：H28 年/4/8～H29/2/9、H29 年/4/10～H30/2/8）

①月別利用者数の前年度比較

平成 29 年度の年間延べ利用者数は、前年度より 85 人増加し 3,945 人であった。要因の一つとして、平成 29 年度より入学時一斉学力テスト（数学）の結果、数学基礎力に課題を抱える学生を対象とした自然科学特別講義「統計学基礎」の開講で連携授業が増えたことが上げられる。また、全体的には、数理系科目における連携授業による受講生の計画的学習支援が定着していると捉えている。

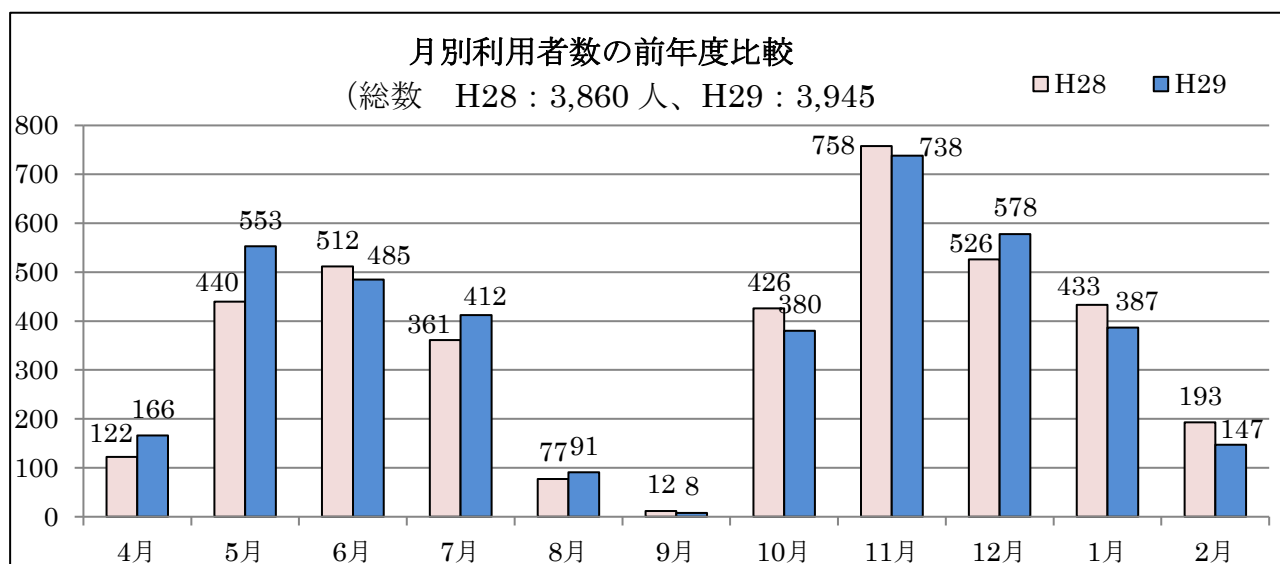


図 1 月別利用者の前年度比較

②年次別利用者数の前年度比較

1 年次の利用率が、これまで全体の約 7 割を占めていたが平成 29 年度は 5.3 割

となり、2 年次以降の利用者が増えていることは良い傾向だと考えられる。

表 4 年次別利用者数 延べ人数（全体における割合）*その他は大学院生、教職員、不明を含む。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	その他*	合計
H28	2,694(69.8%)	445 (11.5%)	473 (12.3%)	122 (3.2%)	126 (3.3%)	3,860
H29	2,069 (52.4%)	1,013 (25.7%)	506 (12.8%)	235 (6.0%)	122 (3.1%)	3,945

③所属別年間利用者の前年度比較

今年度は看護学科の利用者は少し減少したが、スポーツ健康学科の利用者が増加した。要因は、自然科学特別講義「統計学基礎」の履修者が利用したことで増えたことがあげられる。

表 5 所属別年間利用者数 延べ人数（全体における割合）*その他は大学院生、教職員、不明を含む。

所属	国際学群	スポーツ健康学	看護学科	その他*	合計
H28	2,647 (68.6%)	44 (1.1%)	1,044 (27.0%)	125 (3.2%)	3,860
H29	2,721 (69.0%)	137 (3.5%)	965 (24.5%)	122 (3.1%)	3,945

④目的別年間利用者数

（*課題とは課題の解答及びチュータリングを合わせた数である。）

自習と課題点検数は前年度より減少している。講座、PC 利用、本の利用、OH 等が増えている。

表 6 目的別利用者数の全年度比較 *その他は不明を含む。

	自習	課題*	講座	PC	本	OH	その他*	合計
H28	283	3,255	153	52	11	106	0	3,860
H29	190	3,211	287	63	20	130	44	3,945

(3) 平成 29 年度年間利用者の実人数（*その他は 4 年次以下を除く学生または教職員の数を表す。）

(2)において年次別、所属別年間利用者の延べ人数の前年度比較を示したが、表 7 は平成 29 年度の年次別、所属別の利用者実人数を表したものである。特徴的なのは、国際学群においては 1 年次より 2 年次の利用者が多く 3 年次や 4 年次もいるが、スポーツ健康学科では 3、4 年次がほとんどいない。看護学科も 1 年次がほとんどであるが、2 年次以降も若干いる。一般的に 4 年次の利用者は、就職試験対策や上級公務員試験対策、卒業研究のための SPSS の利用者だと考えられる。年次別実利用率は、実利用者数合計を在籍数（平成 30 年 3 月 1 日現在）で割ったものである。

表 7 平成 29 年度年次別、所属別年間利用者実人数及び年次別利用率

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	その他*	合計
国際学群	96	106	54	28	15	299
スポーツ健康学科	14	2	0	0	0	16
看護学科	81	5	4	1	0	91
実利用者数合計(人)	191	113	58	29	15	406
実利用率 (%)	39.9	22.9	11.4	5.3		

5. 連携授業における平成 29 年度の報告

(1) 連携授業における新しく取り入れた内容 () は授業担当者

①数学(高安)

4 つの単元（線形計画法、行列と連立方程式、統計、円錐曲線）において発展学習として ICT を取り入れた教材開発を行い、授業及び授業外学習で ICT 活用を推進した。復習課題の学習支援が行えるよう、チューターの事前研修も行った。

②統計学(木村・高安・仲程)

テキストに準拠したワークブック(予習課題・授業の演習問題・復習課題)の問題は毎学期修正し、チューターも緊張感を持って新鮮な気持ちで学習支援に取り組めるよう配慮した。発展課題として、自分でデータを収集しエクセルを活用して記述統計及び推測統計に取り組ませた。チューター研修を行い積極的に講座も担当できるようになった。

③診療情報科目（大城真理子、上門、木村）

診療情報科目においては、2，3 年次対象の連携授業科目を増やしたことで、2 年次以上の MSLC 利用者が増えたと思われる。また、3 年次で「診療情報管理士認定試験」の合格内定をもらった担当チューターが、問題を作成し担当教員の点検を受けて「診療情報管理士認定試験」の模擬試験を実施した。結果分析を行い受験者にフィードバックし、直前対策に活かすことができた。模擬試験を受け受験した 13 人の中で 12 人が診療情報管理士認定試験に合格した。連携授業科目の新規科目は、医学各論Ⅱ、医学各論Ⅲ及び医療統計学である。

④コンピュータ概論、情報処理論(天願)

前期に、初心者向け IT パスポート試験対策講座を 2 講座（18 回と 17 回）開講し、その中 7 人が IT パスポート試験を受験しその内 5 人合格することができた。

(2) 今年度の新たな取り組み

①「数学再テスト」の実施（平成 28 年度から実施）

入学時一斉学力テストにおいて、数学に課題を抱える学生の詳しい実態把握のために、中学の基礎事項から学び直しが必要であると判定された学生を対象に、「数学再テスト」を実施した。

受験対象者 205 人、受験者 197 人、受験率 91.2% 対象外の受験生が 1 人いた。不受験者は、国際学群の 7 人(3 人は留学生)で、看護学科とスポーツ健康学科は受験率 100%であった。

② 自然科学特別講義「統計学基礎」の実施

「数学再テスト」の結果が 50 点未満の希望者を対象に「統計学基礎」講座を実施した。

23 人（対象者以外の看護の学生 3 人を含む）が履修し、21 人が単位を取得した。

(3) 連携授業領域別利用状況

受講者の MSLC 利用率は、全体的には 90%以上であるが目標は 100%である。特に統計学は前半でリタイアする受講生もあり、利用率をもう少し上げる必要がある。一人当たりの利用回数は、課題の量によって異なる。数学は、授業の予習・復習課題の他にエクセル活用課題や SPI チャレンジ問題の課題もあり提出課題が多いので利用回数が他より多くなっている。課題提出率は、科目によって異なる。診療情報科目 94.5%が最も高く、次いで数学 83.9%(復習 95.0%、予習 76.3%、就職試験対策 83.9%)、統計学 83.0%となり、情報科目は 53.1%であった。情報科目は毎週ではなく、まとめて提出可能なので利用回数は 1 未満となっている。

表 8 連携授業領域別受講者数、利用者延べ人数、1 人当たりの利用回数

項 目	数学	統計学	診療	情報	合計
前期受講者数 (人)	26	93	27	81	227
利用者延べ数 (人)	518	669	298	207	1692
平均利用回数 (回)	19.9	7.2	11.0	2.6	40.7
利用者実人数	26	82	26	75	209
利用率 (%)	100	88.2	96.3	92.3	92.1
後期受講者数 (人)	23	125	54	67	269
利用者延べ数 (人)	327	1249	398	59	2033
平均利用回数 (回)	14.2	10.0	7.4	0.9	32.5
利用者実人数	23	120	53	38	234
利用率 (%)	100	96.0	98.1	56.7	376.8
課題提出率 (%)	83.9	83.0	94.5	53.1	73.8

6. 数理学習センターのチューターの仕事内容

(1) 運営に関すること

- ①統計・・・日々の利用者統計の打ち込み、月別統計の集計
- ②会計・・・出面表の点検、チューター内 MSLC 予算管理
- ③メディア・・・MSLC ホームページ管理、PC 管理
- ④広報・・・広報作成、ブログ編集

※平成 29 年度より入退室管理システムが導入され、学習センターにおける利用者のデータ入力作業がなくなった。しかし、課題もあり改善策を検討しなければならないが厳しい状況もある。

課題 ①チュータリングに関する資料は独自に作成しなければならない。

②利用者の入力漏れがあった場合の集計は手作業で行うがシステム上には反映させず、集計は二つのデータを独自にドッキングさせて行うため時間がかかる。分担するとミスを起こすことが懸念される。

(2) 学習支援に関すること

- ①連携授業における課題作成及び配布・解答の作成
- ②連携授業等の課題の採点やチュータリング
- ③連携授業における中間試験・期末試験対策問題の作成・対策講座等の開講
- ④検定試験対策等の問題作成及び学習支援

(3) MSLC プロジェクト（前期・後期）

MSLC の活動は、チューター講座等を開講し連携授業を中心に各種検定試験対策等の授業外学習のアクティブラーニングも積極的に支援を行っている。

表 9 は、前期、後期に開講したチューター講座である。

表 9 MSLC プロジェクト「チューター講座」の内容

前 期	後 期
①チューター講座 ・数学中間試験対策講座・期末試験対策講座 ・統計学講座・統計学基礎講座・数学苦手克服講座・数学検定対策講座・統計検定対策講座・簿記検定対策講座・SPI 対策講座 ・診療情報管理士試験対策勉強会・模擬試験・IT パスポート勉強会・電卓講座・エクセル講座・数学勉強会(数学検定準 1 級対策) ②数学・科学を身近に感じよう！ ・やんばるの自然体験（大石林山散策）	①チューター講座 ・数学中間試験対策講座・期末試験対策講座 ・統計学講座・数学検定対策講座・統計検定対策講座・上級公務員試験対策講座・SPI 対策講座・IT パスポート勉強会・電卓講座・エクセル講座・数学勉強会(数学検定準 1 級対策) ・診療情報管理士試験対策勉強会・模擬試験 ②数学・科学を身近に感じよう！ ・流星群を見付けよう（天体観察）

(4) 視察対応

表 10 数理学習センターにおける視察対応した団体

前 期 (人)	後 期 (人)
4 月 キリスト教学院大学 屋部小学校	9 月 琉球大学工学部
6 月 追手門学院大学	11 月 NICO OKINAWA 琉球大学グローバル教育支援機構
7 月 沖縄県立看護大学 関西国際大学	12 月 東京学館新潟高校 シークワサー笑費隊
	1 月 福井大学
	3 月 東京工業大学

(5) チュータートレーニング・ミーティング

チュータートレーニング・ミーティングは、前期・後期とも毎週金曜日 5 限目(原則 16:30~18:00)に行った。チュータートレーニングについては、次の「7. MSLC チューター育成プログラム」に記述する。ミーティングでは業務の振り返りや情報共有を図り、今後の業務改善に活かしている。

7. MSLC チューター育成プログラム

(1) 研修会の取組

事前研修会・新規チューターオリエンテーション

前期 日時：平成 29 年 3 月 30 日(木)・3 月 31 日(金)

後期 日時：平成 29 年 9 月 20 日(水)・9 月 21 日(木)

場所：SAKURAUM4F 数理学習センター

参加者：平成 29 年度 前期活動予定の MSLC メンバー

目的：①チューターのスキル向上を図る。

②新規チューターが業務に円滑に入れるように MSLC の活動目的と活動内容を理解する。

③MSLC メンバー相互の親睦を深める。

▽開会式：センター長あいさつ、自己紹介、昇格者表彰、新規チューター消耗品配布

▽数学実力テスト：数学検定 2 級 1 次計算技能、2 級 2 次数理技能検定の模擬試験、統計問題

▽新規チューターオリエンテーション：業務内容説明

チューター育成、会計、施設衛生、利用者統計、広報、メディア

チューターのレベルと昇格、チュータリングについて

▽チュータートレーニング：チューターについて(定義・責任・心構え、チューターの資格)

▽講座の企画(企画・実践・報告書)、プロジェクト発表会の振り返り

▽チュータリングトレーニング

- ①数学検定 2 級 1 次計算技能、2 次数理技能検定の模擬試験 ②平成 29 年度大学入試センター試験「数学①,数学②」の統計分野 ③連携授業の課題
④チュータリング・ロールプレイ

(2) MSLC チュータートレーニング I (PPT を用いた発表・ディスカッション or ロールプレイ)

表 11 H29 年度前期 MSLC チュータートレーニングプログラム

	期日	研修のテーマ	目標及び内容等
事前研修会	3/30	①MSLC の目的 ②議事録作成(記録と管理) ③入退室管理システム デモンストレーション ④役割分担(運営) ⑤情報共有(SNS へのアップの仕方)	・MSLC の目的「学生の数理能力向上と自主学習の促進を支援する」を共有する。 ・「チューターとは？」ピア・チューターの定義を理解し、その責任と自覚を持つようにする。 ・チューターの定義や職務等について確認する。MSLC 運営の流れを確認し MSLC チューターとしての活動を円滑に進められるようにする。
	3/31	①役割分担(連携授業) ②連携授業について、グループ会議 ③プロジェクト発表会の紹介 ④MSLC プロジェクト企画書作成 ⑤第 1 回 MT : 研修会の振り返り	・連携授業の担当分担を決め、必要なチューター講座等の大まかな計画を立てる。 ・前回のプロジェクト発表会スライドを見ながら振り返り課題等について再確認する。 ・第 1 回ミーティングで研修を振り返る。
合同研修会	4/5	◇名桜大学 3 学習センター (LLC・MSLC・MWC) の合同研修会	・3センターの活動報告後、共通の課題発見の機会を設け、相互に解決策を話し合い、チューターとしての意識の向上を図る。 ・グループディスカッションを通して交流を深め、学び合いの場とする。
第 1 回	4/14	◇合同研修会の振り返り	・合同研修会のアンケート集計結果について情報共有し、成果と課題についてまとめる。次回に向けての取組をどのようにするか検討する。
第 2 回	4/21	◇今期の開講講座紹介	・望ましいプレゼンテーションの仕方について確認し、学期末に行われる MSLC プロジェクト発表会の際に活かす。
第 3 回	4/28	◇TR すべきこと してはいけないこと	・チュータリングの基本事項を学ぶ。 ・チュータリングの定義(意味)と責任について理解 ・チュータリングですべきこととやってはいけない基本的な事柄を理解し、応用できるようにする。 ・チュータリングセッションの効果的な始め方と終わり方について理解し、ロールプレイを行い実践に活かせるようにする。
第 4 回	5/2	◇視察対応の仕方	・スムーズな視察対応を目指して、伝えるべきこと、記録に残すこと、記録の保管場所等について情報共有を行う。スムーズな視察対応を行い MSLC を理解してもらう。
第 5 回	5/12	◇模範的なチューター ロールモデルとは	・個人が周りに与える影響について理解し、模範的チューターの特質や性質について理解する。また、1 人 1 人がそれを目指して努力する姿勢を学ぶ。

第6回	5/19	◇リフェラルスキル 緊急時の対応	・緊急時あるいは非常時に対応して、それに適したサービス機関に連絡する（照会できる）能力や知識を身に付ける。 ①学習障害のある学習者への対応スキル。 ②学習者が学習以外の支援が必要な時に対応するスキル。 ③学習者が学習支援以外の目的で接する場合のスキル。
第7回	5/26	◇利用者統計 データの取り方と集計の仕方	・統計の役割、なぜ必要なのか目的を共通理解し、データの取り方や MSLC の活性化に繋がる目的意識を持つようにする。
第8回	6/2	◇数理学習センターのあゆみ	・MSLC のこれまでの成果と課題について情報共有を図り、今後の研修や活動に活かしていく。 ・チューター育成プログラム開発について ・チュータートレーニングについて
第9回	6/9	◇コミュニケーションスキル 1.コミュニケーションスキルとは 2.合言葉は「ほたき」のスキル 3.組織内コミュニケーション	・コミュニケーションの重要性を理解し、効果的なコミュニケーションスキルについて理解し、応用できるようにする。 ・相手の主張と自分の主張をうまく伝えるコミュニケーションの仕方について理解し、応用できるようにする。全チューターが、コミュニケーション力を身に付け、より分かりやすい TR を行うことが出来るようにする。
第10回	6/16	◇スタディースキル	・自分の学習スタイルを知り、タイムマネジメントや学びのテクニックについて主体的に考える。自分の学習内容を振り返り、改善点を見付け、卒業までの目標を設定し行動に移す。全チューターが、MSLC の業務と学業等を上手く両立できるようになる。
第11回	6/30	◇ストレスマネジメント	・全チューターが、MSLC の業務と学業等を上手く両立できるようになる。
第12回	7/7	◇前期プロジェクト発表会の振り返り チュータートレーニング評価結果のフィードバック	・前回のプロジェクト発表会の成果と課題について再確認し、今回改善された点、今後の課題を見付け、今回のプロジェクト発表会のまとめに活かしていく。 ・毎回のトレーニングの相互評価をフィードバックし今後活かしていく。
第13回	7/14	◇プロジェクト発表会リハーサル	・本番1週間前までのデータを元にスライドを作成し、発表内容やスライドの作成について気づいた点を話し合い、本番までに改善するよう準備を行う。 ・プレゼンテーションについての仕方(話し方・立ち振る舞い)について確認し全員からアドバイスを受ける。
第14回	7/21	◇プロジェクト発表会リハーサル	・本番の発表スライド及び発表原稿等を作成しリハーサルを行うとともに、当日までの準備、当日の準備について意見交換を行う。

第15回	7/28	◇プロジェクト発表会	・MSLC の活動成果発表に向けて、スライド作成者、発表担当者、ポスター作成者、その他の係など、これまでの活動報告が十分伝えられるようチーム一丸となって報告会を実施する。 ・プレゼンテーションスキル向上の研修成果が発揮できるよう最大のパフォーマンスを行う。
第16回	8/4	◇プロジェクト発表会の振り返り プロジェクト発表会の評価 今学期のチューターの相互評価	プロジェクト発表会の振り返りから、今学期の活動全体を振り返る。今期の活動全般の自己評価及び自己の成長を振り返る 来学期のチューターとしての活動を、より円滑に進められるようにする。

※チュータートレーニングⅡのチュータリングロールプレイも毎週実施 前期の内容については省略。

表 12 H29 年度後期 MSLC チュータートレーニングⅠ プログラム

回	予定日	後期研修テーマ
事前研修会	9月20日	MSLC 事前研修会(1日目) ①MSLC の目的 ②議事録作成(記録と管理) ③数学確認テスト及び事前勉強会 ④役割分担(運営) ⑤情報共有(SNS へのアップの仕方)
事前研修会	9月21日	MSLC 事前研修会(2日目) ①役割分担(連携授業) ②統計学の事前勉強会
第1回	9月29日	プレゼンテーションにおける効果的なスライド作成
第2回	10月6日	プレゼンテーションの評価方法について
第3回	10月13日	TR ロールプレイの評価方法について
第4回	10月20日	模範的なチューターとは ロールモデルになろう！
第5回	11月10日	視察対応の仕方 あなたならどうしますか？
第6回	11月17日	写真の撮り方 使いたくなるような写真を撮る
第7回	11月24日	スタディースキル 自分自身のために学習支援のために
第8回	12月1日	エクセルのソルバーを活用した線形計画法の解法
第9回	12月8日	さまざまな図形を描こう！「GRAPES」の使い方
第10回	12月15日	リフェラルスキル 緊急時の対応
第11回	12月22日	コミュニケーションスキルを向上させるには
第12回	1月19日	プロジェクト発表会リハーサル①
第13回	1月26日	プロジェクト発表会リハーサル②
第14回	2月2日	プロジェクト発表会本番
第15回	2月9日	プロジェクト発表会の振り返り プロジェクトの評価・チューターの相互評価

表 13 H29 年度後期 MSLC チュータートレーニングⅡ チュータリングロールプレイ

回	予定日	後期研修テーマ
事前 研修会	9 月 20 日	事前研修会 1 日目 数学実力テスト 数学検定 2 級 or 1 次試験問題
	9 月 21 日	2 日目 統計学実力テスト大学入試センター試験統計学分野解答解説
第 1 回	9 月 29 日	式の値、多角形の対角線の数（組合せ）、三角方程式（数研 2 級 2 次）
第 2 回	10 月 6 日	対数の応用 大きな数の桁数を求める問題
第 3 回	10 月 13 日	線形計画法 最適化問題 連立不等式の活用
第 4 回	10 月 20 日	10 進数の位取り n 進法の問題
第 5 回	11 月 10 日	上級公務員試験対策問題 3 つの集合に関する問題
第 6 回	11 月 17 日	単利法と複利法の計算 積立元利合計の求め方
第 7 回	11 月 24 日	統計分野 標準化の意味と偏差値 偏差値の求め方
第 8 回	12 月 1 日	95%信頼区間とは その求め方
第 9 回	12 月 8 日	統計分野 標準正規分布より標本平均を使った区間推定
第 10 回	12 月 15 日	上級公務員試験対策問題 速度算と時計算
第 11 回	12 月 22 日	エクセルのソルバーを使って線形計画法の最適化問題を解く
第 12 回	1 月 19 日	円の方程式の求め方
第 13 回	1 月 26 日	円の方程式の求め方

※今年度のチュータートレーニングは、プレゼンテーションによる研修もチュータリングロールプレイもリフレクションペーパー及び評価シートを改善し、1 人 1 人の評価が明確になるように工夫した。さらに、評価結果を副リーダーが入力し本人にフィードバックし今後活かせる様に改善した。

(3) センター長によるチューター面談

（前期：4 月・6 月・8 月、後期：10 月・12 月・2 月）

チューターは自己の活動及び成長を可視化するために、マネジメント点検表を作成する。それに基づきセンター長と学期に 3 回面談を行う。センター長はチューターの意欲や業績を評価し、チューターへの激励や指導助言を行い、円滑なセンター運営・管理に活かすことを目的とする。

今年度は、大城真理子副センター長や木村堅一リベラルアーツ機構長にもチューター面談に参加してもらったが、計画が上手くいかず多くは実施できなかった。

▽マネジメント点検表

- ・前期の成果と課題→今期の目標設定
- ・運営面・学習面・その他(自己の学業・その他)の 3 つの項目について記載
 - 1 回目：今期の目標設定とその手立てを記述
 - 2 回目：活動の中間報告
 - 3 回目：今期の活動の総括を行い成果と課題及び自己評価も記入

▽チューターの調査結果の共有

- ・自己理解を深める性格を知る調査(①外向性、②情緒不安性、③開放性、④誠実性、⑤調和性)
- ・社会人基礎力調査(①前に踏み出す力、②考え抜く力、③伝える力、④チームで働く力)

(4) チューター評価

以下の項目について、チューターの相互評価と MSLC 担当職員、センター長がそれぞれ行う。

- ①基本的マナー(言葉づかい・時間を守る・挨拶・利用者との対応等)、②責任感、③協調性、④向上心、⑤チュータリング力、⑥リーダー性(指導力)、⑦チューター同士の関わり方

▽面談の際は、チューターが毎回記載する自己点検チェックリスト(5段階評価)も参考にする。

(5) 検定試験対策講座と試験結果

資格取得の学習支援としてチューターが主体的に企画・実施し対策講座を行った。平成 29 年度から、名桜大学で統計検定の団体受験を実施し、統計検定 3 級を前期 5 人受験 4 人合格、後期は 3 級 6 人受験 4 人合格、2 級 1 人受験 1 人合格した。実用数学技能検定は、後期は受験人数が足りなくて前期のみの実施となった。9 人受験し 2 級 2 人合格、2 級 1 次のみ 3 人合格、2 級不合格 3 人、準 1 級不合格 1 人であった。前期 IT パスポート試験対策講座を受講した学生は、7 人中 5 人合格した。診療情報管理士認定試験は講座受講生 11 人中 10 人合格し、チューター 2 人も受験し 2 人合格した。MSLC チューターの積極的な資格所得の挑戦は、他の学生にも良い影響を与えている。

各種検定等		前期	後期
数学検定	準 1 級	1	1
	2 級	9	9
	2 級 1 次	2	2
	準 2 級	1	1
統計検定	2 級		1
	3 級	4	6
診療情報管理士認定試験		1	3
IT パスポート試験		1	2

8. 平成 29 年度のチューターの昇格

上記「7. チューター育成プログラム」(1)～(5)の結果及び 6. (3)「チューター講座」、9. 「プロジェクト発表会」の取組及び評価結果を基に、チューターマニュアルに示す基準(チュータリング時間 25 時間以上)を達成したチューターは昇格できる。

平成 29 年度のチューターの昇格は、以下の通りとなっている。

▽4 月昇格：マスター 1 人、アドバンス 4 人、レギュラー 3 人 合計 8 人

▽9 月昇格：アドバンス 1 人、レギュラー 1 人 合計 2 人であった。

9. 平成 29 年度 数理学習センタープロジェクト発表会

(1) 前学期

日時：平成 29 年 7 月 28 日(金) 16:30～18:00

会場：SAKURAUM6 階 スカイホール B

発表：ポスター発表&口頭発表

①MSLC 運営(利用者統計・広報・チューター育成)

②連携授業(数学・統計学・情報処理論・診療情報)、

③チューター講座(数学・診療)、数学・科学を身近に感じよう！

発表会参加者：教職員 7 名、学生 8 名、MSLC スタッフ：チューター14 名、教職員 2 名 計 31 名



(2) 後学期

日時：平成 30 年 2 月 2 日(金)

会場：SAKURAUM3F 大講義室 B

発表：口頭発表

①MSLC 行事報告

②チューター育成

③利用者統計

④連携授業（数学・統計学・情報処理論・診療情報）」

：ポスター発表

①チューター講座

②数学・科学を身近に感じよう！

③広報(月刊 MSLC、数理学習センターだより)

発表会参加者：教職員 11 名、学生 13 名、

MSLC スタッフ：チューター15 名、教職員 2 名 計 41 名



10. まとめ

MSLCにおける学習支援の特徴は、連携授業において15週通して受講生の学習支援を行うことである。学習支援の教材は、担当教員とチューターが連携し15週分の課題作成を行い、その点検及びチュータリング

を行っている。そのため、チューターも問題を事前に解かなければならないため、シフト以外での自習やトレーニングを行う必要がある。今回は、チュータリングロールプレイのトレーニング方法や評価シートの改善も行い、チュータリングスキルの向上に努め、以下の成果があった。



[成果]

- ①数理学習センターのチューター前期 15 人、後期 16 人で年間 3,945 人の学習支援を行った。
- ②1 学年担任との連携により「数学再テスト」を実施し、数学基礎力に課題を抱えた学生のための自然科学特別講義「統計学基礎」を実施することができ、必要な学生への学習支援ができた。
- ③連携授業における数理能力の効果測定は、数学及び統計学基礎については診断テストと中間試験と期末試験の正解率比較から判断し、学習意欲や数理的な能力はある程度向上したことが分かった。分析能力については、学習態度や期末試験において良い結果が出ている。
- ④今年度初めて MSLC において統計検定団体試験を実施し、3 級 10 人 2 級 1 人の合格者がでた。
- ⑤診療情報管理士認定試験の結果、チューター講座を受講した 13 人中 12 人が合格した。
- ⑥上級公務員試験対策講座を継続的に受講し上級公務員試験に合格したという報告があった。
- ⑦プロジェクト発表会を前期・後期実施し、ポスターとプレゼンテーションの発表を行った。
- ⑧広報担当チューターが月刊 MSLC、センター長が数理学習センターだよりを定期的に発行した。

[課題]

- ①利用者統計の集計 ②各種検定の受験率及び合格率の向上
- ③学習センターの利用率を 100%にすることが求められているが、数理系科目の学習支援では現在の体制では厳しく、学習支援の質の向上を重視したいと考えている。

(数理学習センター長 高安美智子)

3.3 ライティングセンター活動報告

H29 年度 MWC 活動報告概要 (2018 年 4 月 16 日版、一部修正)

1. 開室期間

前期：4 月 12 日～8 月 8 日

後期：10 月 2 日～2 月 9 日

2. 開室時間

1 限～5 限（昼休み含む）

- 1 時限単位で開室し、1 セッション＝45 分でチュータリングを実施。

3. チューター

前期：14 人

所属／年次	4 年	3 年	2 年
学群	2	2	5
スポ健	1	1	2
看護	0	1	0

後期：19 人

所属／年次	4 年	3 年	2 年	1 年
学群	2	2	5	4
スポ健	1	1	2	0
看護	0	1	0	1

4. 利用実績

延べ 358 人（前年度：241 人）

※チュータリングを受けた学生数のみ。ワークショップ参加者は除く。

2017年曜日・時間毎利用者数

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限	7	12	1	8	11
2限	6	4	29	11	2
昼	8	3	13	9	2
3限	14	13	27	17	11
4限	14	16	22	18	13
5限	17	10	10	22	8

5. 業務内容

(1) 文章作成支援／チューター研修

①チュータリング

MWC と授業連携している「アカデミックライティングⅠ」、「大学と人生」を受講している 1 年次を対象に、レポート作成の支援を行った。その他、「アカデミックライティングⅡ」、「アカデミックライティング (R)」、「教養演習」、「統計学」、「国際社会と日本」、「社会学」のレポートや要約文、プレゼン資料に対応した。

②チュータリングで活用できる資料作成 先輩チューターを中心に、効率的にチュータリングを行うための資料を作成した。

例) 序論、本論、結論の構成を分かりやすく説明するためのサンプルの作成：全チューターが、アカデミックライティングⅠの 3 つの課題文に対応するレポートを作成し、定例のミーティングの際に互いにアドバイスをを行うことを繰り返して文章を修正した。最終的に、その中から最もよいレポートをサンプルとして採用し、実際のチュータリングで活用した。

③チューター研修の手法開発

先輩チューターと後輩チューターを組み合わせペアを作り、研修用の課題文を使用して、1) 文章診断、2) ロールプレイを繰り返して、新チューターを育成する仕組みづくりを試みた。また、どの程度チュータリングが出来るようになったかを、先輩チューターが、文章診断力・文章指導力の観点から判定する基準作りを試みた。

(2) イベント／企画・広報活動

①オープンキャンパス

6 月、8 月に実施されたオープンキャンパスで、「3 分小論文講座」を開催した。

②高校生対象の小論文講座

オープンキャンパスで MWC を訪れた北山高校生との交流を契機に、高校生対象の小論文講座を 3 回開催した。参加者は北山高校 3 年生、延べ約 30 人であった。同講座開催に向けて、企画を担当するチューター 2 人を中心に、講座で使用するテキストの作成、課題文の選定・参加希望者への郵送、予め執筆してもらった。小論文の添削などの事前準備を行った。講座当日は、高校生 1 人につきチューター 1 人が対応する個別チュータリングを行った。同講座開催は当初 1 回の予定であったが、参加者および北山高校進路指導部からの要請により、全 3 回開催した。

開催日) 第 1 回：8 月 10 日

第 2 回：10 月 14 日

第 3 回：11 月 11 日

③ワークショップ

連携する授業が少ないため利用者が減少する後期は、ワークショップを開催し、MWC の利用を促した。

タイトル	開催日	参加人数
「大学と人生」タームペーパーの書き方講座	12/6(水)3 限 12/15(金)お昼	計 54
そのバイト、辞めませんか??	11/29(水)4 限 12/6(水)お昼	計 18
ビジネスメールの書き方	1/17(水) 15:00~16:00	計 9
文章力アップ~ 秘 テクニック教えます~	1/19(金) 14:45~15:15	計 3

④MWC 利用に関する利用案内の作成

別資料参照

⑤SNS での広報活動

広報係を中心に、SNS での広報活動を開始。

⑥広報誌掲載

別資料参照

6. その他：2、3 月の活動状況

①チューター

- 企画・広報係による新入生に配布する MWC 利用案内を作成。
- 東工大視察対応
- 新年度の新チューター研修企画作成

②県外視察

- 愛知淑徳大学ライティングサポートデスク視察
- 龍谷大学ライティングセンター視察
- 早稲田大学ライティングセンター訪問